

世界の大学院生、将来の職業選択に関して曖昧な態度（10月21日）

学術誌「ネイチャー (Nature)」を発行するネイチャー・パブリッシング・グループ社 (Nature Publishing Group) は、研究キャリア初期にある大学院生を対象に実施した調査「2015年ネイチャー大学院生キャリア調査 (Nature Careers graduate-student survey, 2015)」の結果を発表した。本調査結果は、欧州・アジア・北南米・アフリカ・オーストラリアなど、世界中の大学院生 3,451 人からの回答を分析したものである。これによると、回答者の約 78% が、学術界での研究職としての就職を目指していることが明らかにされた。その一方で、全体の約 60% は産業界での仕事を探す可能性が「高い」または「非常に高い」と回答している他、61% は政府もしくは財団における研究職を探す可能性が「高い」または「非常に高い」と回答していることも判明した。このため、同調査では、大学院生は将来の職業選択に関してははっきりとした態度をとっていないと報告している。

なお、本調査結果データは、< <http://figshare.com/s/fa5d4166734b11e5b3c206ec4bbcf141>> からダウンロード可能。

Nature, Graduate survey: Uncertain futures

<http://www.nature.com/naturejobs/science/articles/10.1038/nj7574-597a>